

# 第18回 ちゅうでん教育振興助成（平成30年度）

## 報告書資料 一般 - 37

学校名・団体名	長野県飯田養護学校
コース	学校支援
活動・研究のテーマ	プレキャリア教育としてのものづくり教育の実践

### 〈活動・研究の意義および活動報告〉

#### I 研究の意義

「ものをつくる」という事は、そのプロセスの中で達成感を感じ、自己肯定感情や自尊感情を高めていくことにつながる。また、高等部への進学、その先の「働く」という事に向けての必要な要素であり、中学部段階では高等部段階で行われるものづくりの「プレ」となるものづくり教育が必要である。

本研究は、様々な実態のある生徒に対し、様々なプレキャリア教育としてのものづくりの実践と、その環境作りについてまとめたものである。

#### II 生徒が自分で取り組むことができる環境作り

知的障害のある子どもといっても、その実態は様々であり、麻痺のある子どもや、体幹のバランスが悪い子ども、力を入れることが難しい子どもなど、多様な困難さがある。今回は環境作りとして、①治具を使うことによる環境作り、②電動工具を活用することによる環境作りを行った。図1に示すように、のこぎりを切り溝に入れることで簡単にまっすぐ切ることができる「こぐち切り台」を作成した。この治具を使用することで、身体に麻痺のある子どもであっても、安全に「一人の力」で木材の切断ができた。

また、木カレンダー作成用に図2に示すような電動工具を活用している。工房内は沢山の工具を使用するため騒音が聴覚過敏のある子どもにとって不快になり、その場にいられない環境となってしまうことも考えられる。そのため、ポータブル電源を購入し、教室外でも使用できるように改良した。

治具を使う場合も、電動工具を使う場合も図3に示すような手順書を用い、生徒が写真やイラストを見て、「自分でできる。」ように活動を展開した。



図1 切り台を使用した切断



図2 工作機械を使用した加工



図3 手順書を活用した手工芸

### Ⅲ 達成感を感じるものづくり

プレ教育のものづくりとして位置づけていくためには子ども自身が「楽しい、だからやりたいんだ。できる、だから私は作るんだ。」と思えるようにしていくことが大切である。十分な環境作りを行った後、子どもたちの様子を見てみると図4のように、自発的に「俺、これやるね。」と作業に取り組む様子が見られた。

また、自分一人のできるようになって、材料を机の上に置くだけで自発的に作業を始める様子も見ることができた。図3に示すように飯田の伝統工芸「水引」を活用した工芸作品の作成にも興味を持ち、「やりたいよ。」と教員に伝えてくれることもあった。



図4 自発的に取り組む紙やすり

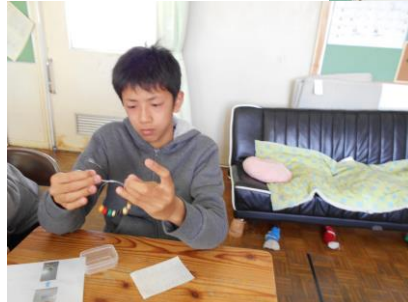


図5 一人でできるビーズ細工



図6 伝統工芸「水引」の体験

最初はおっかなびっくり工具を使っていた生徒たちも、図7,8のように段々と教員の手を頼ることなく、自分から進んでものづくりに取り組んでいた。子どもたちの様子から「楽しい、だからやりたいんだ。できる、だから私は作るんだ。」という思いを感じることができた。プレキャリア教育としてのものづくりの目標を達成することができた。



図4.5 自分でやりたいと意欲的にものづくりに取り組む子どもたちの姿

### Ⅳ 今後の展望

今回の研究で「環境作りができていれば、子どもたちが達成感を感じるプレキャリア教育としてのものづくり」は十分に効果的に実施できるということがわかった。治具の配置や電動工具の使用など、教員の工夫次第で子どもたちがのびのびと活動に取り組むことができるという実践ができて非常によかった。今後、校内の他のクラスにも普及していくことができるようにしていきたい。そういった意味では「ものづくりの面での環境作り」については、今回十分意味のある研究が実践できたが、「知的障害の特性に合わせた学習の場作り」という意味では「タイムタイマーを活用した目で見える時間の確認」、「パーテーションによる外部の刺激のない環境作り。」の二つしか実践することができなかった。

今回の研究を元に、今後は様々な障害特性に合わせたプレキャリア教育としてのものづくりを実践していきたい。

本研究は公益財団法人ちゅうでん教育振興財団の研究助成を受け、実施することができました。深く感謝の意を表します。